

2024年度

柔道整復科2年

シラバス


卒業時の到達目標

柔道整復師の業務と活躍の場を正しく理解し、進むべき道を自ら決定し各現場に適応するとともに、他の医療従事者との連携を重視し、地域社会に誠意を持って貢献することができる。



3年次の概要

前期は、患者の診察から施術、治癒に至るまでの施術プランの作成及び指導管理までの一連の流れを座学授業の中でシミュレーションし、必要となる技術を実技授業で修得する。附属施術所実習においては前述の流れを患者さまに実践することにより、卒後の現場に自信を持って羽ばたくための集大成となる授業を展開する。後期は、国家試験の対策に重点を置き、これまでに学んだ知識の整理を行い確実な合格につなげる。



2年次の概要

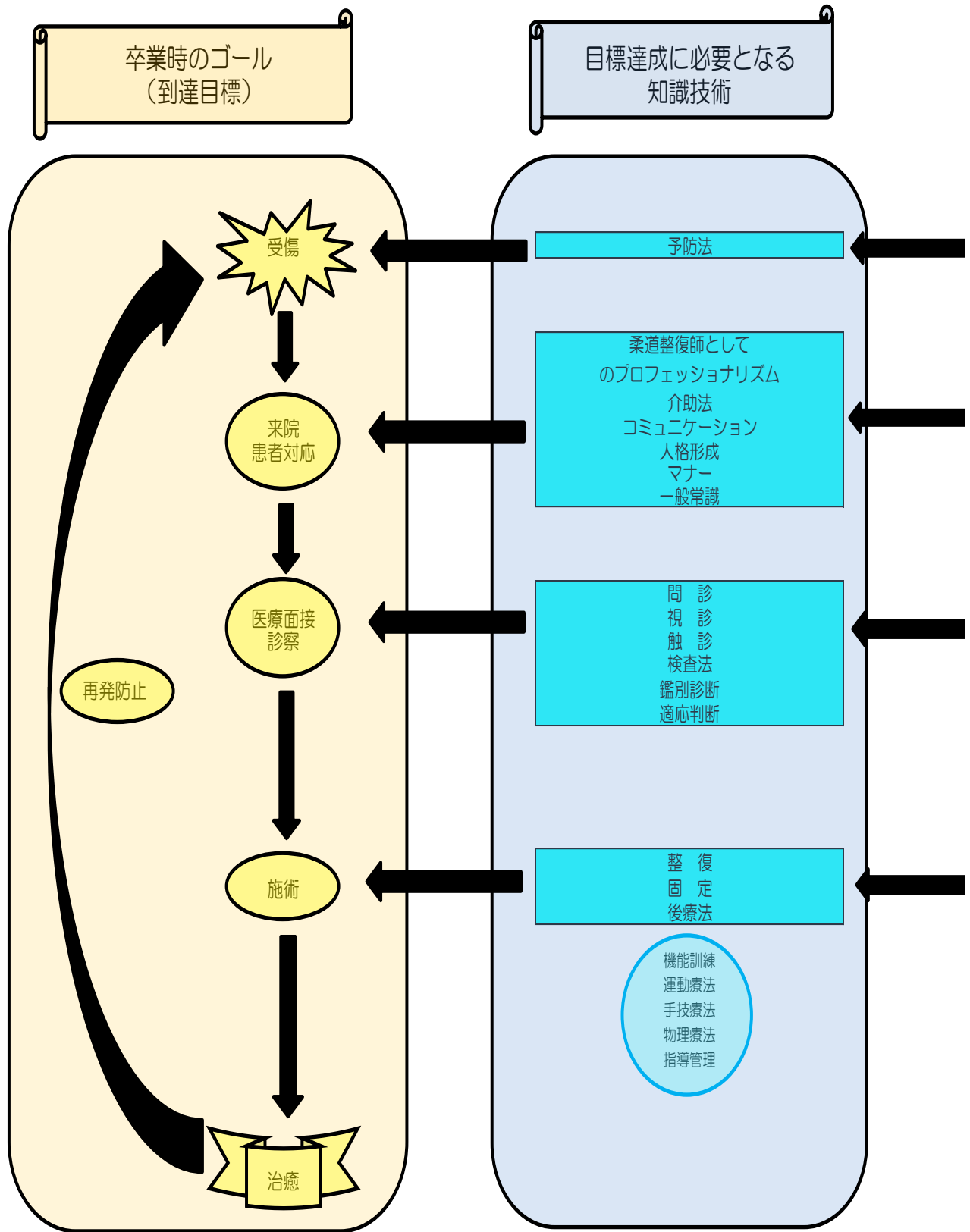
1年次に修得した基礎知識を基に実践的な知識技術を学ぶ。座学授業においては身体各部のケガの概要を理解するとともに、整形外科や内科学をはじめとする医学の知識を合わせて修得し、柔道整復の施術適応の判断能力を獲得する。実技授業では実践的な徒手検査法の技術、外傷予防のためのトレーニング及びストレッチの手法を学び、この技術を臨床実習で患者さまに実践していく。また附属施術所実習においては、患者さまへの問診から診察までの流れを実践するとともに、保険の取り扱いについても学ぶ。



1年次の概要

基礎となる医学用語を理解するとともに、柔道整復師としての職業意識の向上に重点を置く。職業への倫理観、社会人としてのマナー、一般常識、立ち居振る舞いを授業及び臨床実習を通じ身に付ける。また身体の構造機能の基礎、怪我の基礎についての理解を深め、実技授業では診察の基本的手法及び固定法の技術を身に付け柔道整復師への第一歩を踏み出す。

卒業時の目標とカリキュラム構成イメージ



知識技術修得のための設定科目

・外傷予防法 (実技)

・高齢者競技者の
・生理学的特徴と変化 I・II
・人体機能回復論

・柔整人体構造機能学基礎
・運動器の機能構造 I
・運動器の機能構造 II
・解剖学
・生理学

・職業倫理
・関係法規
・総合基礎 I・II
・健康の意義
・柔道 (実技)
・疾病と障害
・社会保障制度

・基本診察治療法 (実技)
・柔道整復術の適応と鑑別
・外科診断治療学 I・II
・内科診断治療 I・II

・柔整外傷論基礎
・柔整外傷保存療法
・柔整後療治療論
・柔整応用治療論
・体幹の損傷・治療論
・上肢の損傷・治療論
・下肢の損傷・治療論
・軟部組織損傷・治療論
・総合柔道整復論
・柔整関連医学

・固定法 I (実技)
・固定法 II (実技)
・応用診察治療法 (実技)
・柔整応用治療法 I (実技)
・柔整応用治療法 II (実技)
・柔整後療法 (実技)

臨床実習

単位充当表

	教育内容	授業科目	授業形態	単位数	1学年		2学年		3学年		計		
					単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	総合基礎Ⅰ	講義	14	10	150					10	150	
		総合基礎Ⅱ	講義				4	60			4	60	
	小計				14	10	150	4	60		14	210	
専門基礎分野	人体の構造と機能	運動器の機能構造Ⅰ	講義	22	8	144					8	144	
		運動器の機能構造Ⅱ	講義						2	36	2	36	
		人体構造学	講義					4	72			4	72
		人体機能学	講義					4	72			4	72
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ	講義			2	36					2	36
		高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ	講義					2	36			2	36
	疾病と傷害	疾病の成り立ち	講義	14				2	36			2	36
		人体機能回復論	講義				4	72			4	72	
		内科診断治療学Ⅰ	講義					2	36			2	36
		内科診断治療学Ⅱ	講義							2	36	2	36
		外科診断治療学Ⅰ	講義				2	36				2	36
		外科診断治療学Ⅱ	講義							2	36	2	36
	柔道整復術の適応	柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ	講義	4				2	36			2	36
		柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ	講義							2	36	2	36
	保健医療福祉と柔道整復の理念	柔道整復師の業務と職業倫理	講義	8	2	36					2	36	
		健康の意義	講義		2	36					2	36	
		柔道Ⅰ	実習		2	72					2	72	
		柔道Ⅱ	実習							2	72	2	72
	社会保障制度	柔整社会学	講義	2					2	36	2	36	
	小計				50	16	324	22	396	12	252	50	972
	専門分野	基礎柔道整復学	柔整外傷論基礎	講義	12	6	108					6	108
			柔整外傷保存療法	講義		2	36					2	36
柔整人体構造機能学基礎			講義	4		72					4	72	
臨床柔道整復学		柔整後療治療論	講義	35	2	36					2	36	
		上肢の損傷・治療論	講義				4	72			4	72	
		下肢の損傷・治療論	講義				4	72			4	72	
		軟部組織損傷・治療論	講義				2	36			2	36	
		体幹の損傷・治療論	講義						2	36	2	36	
		柔整応用治療論	講義						4	72	4	72	
		総合柔道整復論	講義						5	90	5	90	
		柔整関連医学Ⅰ	講義						6	108	6	108	
		柔整関連医学Ⅱ	講義						6	108	6	108	
		柔道整復実技	固定法Ⅰ		実習	17	2	72					2
固定法Ⅱ			実習	2	72						2	72	
基本診察治療法			実習	2	72						2	72	
応用診察治療法			実習				4	144			4	144	
外傷予防法			実習				2	72			2	72	
柔整後療法			実習						1	36	1	36	
柔整応用治療法Ⅰ			実習						2	72	2	72	
柔整応用治療法Ⅱ			実習						2	72	2	72	
臨床実習		臨床実習Ⅰ	実習	4	1	45					1	45	
		臨床実習Ⅱ	実習				1	45			1	45	
		臨床実習Ⅲ	実習				1	45			1	45	
		臨床実習Ⅳ	実習						1	45	1	45	
小計				68	21	513	18	486	29	639	68	1638	
合計		合計			132	47	987	44	942	41	891	132	2820

実務経験のある教員の授業一覧

学年	科目名	単位数	時間数	教員名
1年	運動器の機能構造Ⅰ	8	144	合田香奈
	柔道整復師の業務と職業倫理	2	36	千田由美子
	柔整外傷論基礎	6	108	安原省吾
	柔整外傷保存療法	2	36	田中秀和
	柔整人体構造機能学基礎	4	72	横井大遥
	柔整後療治療論	2	36	東佑樹
	固定法Ⅰ	2	72	大河原崇雄
	固定法Ⅱ	2	72	本田泰之/千田由美子
	基本診察治療法	2	72	安原省吾
2年	上肢の損傷・治療論	4	72	松田卓也
	下肢の損傷・治療論	4	72	田中秀和
	軟部組織損傷・治療論	2	36	東佑樹
	応用診察治療法	4	144	工藤大介/横井大遥
	外傷予防法	2	72	東佑樹/本田泰之
3年	運動器の機能構造Ⅱ	2	36	川口央修
	柔整社会学	2	36	高橋良仁
	体幹の損傷・治療論	2	36	横井大遥
	柔整応用治療論	4	72	松田卓也/田中秀和
	総合柔道整復論	5	90	田中秀和/松田卓也/高橋良仁
	柔整関連医学Ⅰ	6	108	工藤大介
	柔整関連医学Ⅱ	6	108	千田由美子/川口央修/合田香奈 横井大遥
	柔整後療法	1	36	木ノ内秀功
	柔整応用治療法Ⅰ	2	72	千田由美子
	柔整応用治療法Ⅱ	2	72	高橋良仁
合計		78	1710	

2024年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	塗々木 和男		
単位数	2単位		ととき かずお		
必修・選択	必修	時間数	30		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	15回

【授業情報】

授業概要	薬とはどういうものなのかの基礎的知識から、より多くの人が服用する生活習慣病治療薬である抗高血圧薬、高脂血症治療薬、糖尿病治療薬、睡眠薬、抗がん薬、鎮痛薬などの生体への作用・効果を説明します。漢方薬の需要もさらに増している今日、東洋医学における漢方の役割も取り上げます。
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	患者さん自身、医療への意識が非常に高まってきている昨今、皆さんが医療人として患者さんと接したときに話す薬の作用・効果を理解する。
教科書	オンデマンドで配布する資料等(教科書は設定しない)
参考書	特になし
成績評価基準	毎授業の課題の評価提出を持って、最終成績とする。 授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	学業成績の評価は、課題の成績、履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A:100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満
	【その他】
担当教員から一言	今日、高齢化社会を迎え、何某かの疾患にかかり医薬品の処方を受けている患者さんが増えています。また、情報化社会の発達で医薬品に対する関心も高まっています。処方されている鎮痛薬などの薬のことを話される患者さんが現れるかもしれません。それゆえ、柔道整復師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師としての本来の知識・技量に加え、薬に関する一般的・基本的知識も避けて通れない課題と思われます。授業後は復習の習慣をつけることが大事です。予習→授業→復習のサイクルを守るようにして下さい。質問は授業中でも大歓迎ですが、時間が十分に取れない場合があります。Eメール(ktodoki8@gmail.com)でも受付ますので利用して下さい。楽しく、活発な授業にしていきたいと考えています。
自主学習	予習: 必要有 復習: 必須
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期	1	総論:薬の基本知識	医薬品について説明できる。	VOD
	2	総論:薬物療法	薬物療法について説明できる。	VOD
	3	総論:薬が作用するしくみ(薬力学)	薬物受容体の作用機構について説明できる。	VOD
	4	総論:薬の体内挙動(薬物動態)	吸収、分布、代謝、排泄を説明できる。	VOD
	5	各論:生活習慣病1 (動脈硬化症・高血圧症の治療薬)	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	6	各論:生活習慣病2 (狭心症・心筋梗塞の治療薬)	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	7	各論:生活習慣病3 (糖尿病の治療薬)	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	8	各論:がんの治療薬	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	9	各論:痛みの抑制・鎮痛薬	鎮痛作用のメカニズムと代表薬物について説明できる。	VOD
	10	各論:感染症の治療薬・抗感染生薬	感染症薬治療のメカニズムと代表薬物について説明できる。	VOD
	11	各論:抗アレルギー薬と抗炎症薬	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	12	各論:末梢神経に作用する薬物	病気の成り立ちと代表薬物について説明できる。	VOD
	13	各論:漢方薬1	漢方医学の基本理論について説明できる。	VOD
	14	各論:漢方薬2	代表的な漢方薬の構成と効能について説明できる。	VOD
	15	各論:漢方薬3	漢方薬の知っておくべき副作用について説明できる。	VOD

2024年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	中村 真通	
単位数	1単位		なかむら まさみち	
必修・選択	必修	時間数	16	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD 8回

【授業情報】

授業概要	遭遇する可能性のある対人関係の問題や精神疾患に対する対応を紹介しつつ、心理療法の概論について学習する。
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	1.心理療法とカウンセリングに関する基本的な考え方について理解する。 2.カウンセリングの対象となる主な対人関係の問題や精神疾患について理解する。 3.精神分析、交流分析、自律訓練法、行動療法、認知行動療法、来談者中心療法、家族療法の理論と技法を理解する。
教科書	プリント配布:心理療法についてさらに詳しく学びたい方は、窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』(培風館、2003)をお勧めします
参考書	小玉正博・松井豊編 中村真通、他著『生涯発達の中のカウンセリングⅣ』(サイエンス社、2014)
成績評価基準	授業毎課題(100%) 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満
成績評価方法	成績評価は各授業毎課題を合算して行います。 但し提出期限内の課題の提出を持って出席とみなし、提出期限を過ぎた場合は欠席となります。出席要件が規定未達の場合、評価を受けることができないので、提出期限を厳守してください。 【その他】
担当教員から一言	Google classroom を利用した遠隔配信授業を行う。レジメ、音声スライド(動画)を見ながら各自学習し、授業毎課題を期限内に提出してください。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
前期・後期	1	(1)メンタルな問題とその対応 (2)統合失調症	・カウンセリングと心理療法全般に該当する基本的な考え方と倫理について理解できるようになる。	VOD
	2	(1)カウンセリングと心理療法 (2)ソーシャルスキル		VOD
	3	(1)気分障害 (2)精神分析・アドラーとユング	・カウンセリングの対象となる主な精神疾患について理解できるようになる。 ・精神分析、交流分析、自律訓練法、行動療法、認知行動療法、クライエント中心療法、家族療法の理論と技法を理解できるようになる。	VOD
	4	(1)交流分析 (2)自律訓練法		VOD
	5	(1)PTSD・児童虐待 (2)境界性パーソナリティ障害		VOD
	6	(1)行動療法 (2)認知行動療法		VOD
	7	(1)いじめ・不登校 (2)摂食障害・アルコール関連障害		VOD
	8	(1)クライエント中心療法 (2)家族療法		VOD

2024年度 柔道整復科

【分野】 基礎分野 科学的思考の基礎・人間と生活

【科目】 総合基礎Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	長野 慎一		
単位数	1単位		ながの しんいち		
必修・選択	必修	時間数	16		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	VOD	8回

【授業情報】

授業概要	社会福祉の全体像を概括的に学びます。具体的には次の各点に焦点を当てます。 (1) 社会福祉の実践の根底にある理念とはどのようなものであるのか、 (2) 福祉を必要とする人にこれを供給するための仕組みとしてどのようなものがあるのか、 (3) 上記の(1)や(2)は国や地域に応じてどう異なるのか。 授業は、これらの問いに導かれる形で展開されます。
授業の方法	オンデマンド形式で授業を行います。
授業の一般目標 (GIO)	(1) 福祉の根底にある理念を理解し、自ら咀嚼して表現できるようになる。 (2) 社会福祉に関する制度について正しく理解し、それを表現できるようになる。 (3) 自ら暮らす日本社会における福祉供給体制について、他の地域・国と比較することで理解し、相対的に考えることができるようになる。
教科書	設定しない
参考書	授業内にレジュメで指示します。
成績評価基準	以下の各点を、期末試験及び小レポートで問います。 (1) 授業で説明した知識を理解し表現できるか。 (2) 授業で説明した知識を用いて、自ら社会福祉について思考を深め、それを表現できるか。
成績評価方法	(1) 客観試験課題50%小レポート50%計100% (2) 授業内で課す小レポが非常に重要です。真剣に取り組んでください。 学業成績の評価は、提出課題等の成績及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A: 100～90点 (2) B: 89～70点 (3) C: 69～60点 (4) D: 60点未満 【その他】
担当教員から一言	社会福祉という語を聞いても、ほとんどの人が、漠然とした内容しか思い浮かばないのではないのでしょうか。本講義では、日本社会の具体的な制度を取り上げ、社会福祉が意味するところを具体的に知ることができます。同時に他国の制度との比較を通して、福祉に対する考え方の多様性に触れることができます。社会福祉の在り方は、皆さまの生(人生・生活・生命)の在り方を大きく左右します。ぜひ当事者意識をもって積極的に学んでください。
自主学習	予習: 必要なし 復習: 必須 各授業に対して復習を1時間
オフィスアワー	配信後の火曜日の17時まで

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SBOs)	授業形態
後期	1	社会福祉と福祉国家(1)	国民(住民)の福祉に責任を負う国家の特徴とそのような国家が出現した歴史的背景を理解し説明できる。	VOD
	2	社会福祉と福祉国家(2)		VOD
	3	公的扶助としての生活保護	貧困に対処する公的制度として生活保護制度の原則と概要を理解する。現代日本の貧困の状況に対して生活保護制度が果している役割を理解し説明できる。	VOD
	4	年金制度(1)	労働市場からの退出に伴う高齢期の生活保障制度としての公的年金制度の概要を理解する。働き方の相違がいかん保障の厚さの差として結実するかを理解し説明できる。	VOD
	5	年金制度(2)		VOD
	6	介護保険制度(1)	介護の社会化を図る制度としての公的介護保険制度を理解する。現代日本社会における家族による介護に焦点を当て、介護の社会化の程度を理解し説明できる。	VOD
	7	介護保険制度(2)		VOD
	8	医療保険制度	傷害や病気というリスクを社会的に低減する公的制度としての公的医療保険制度を理解し説明できる。	VOD

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体構造学

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	勝村 聖子		
単位数	4単位		かつむら せいこ		
必修・選択	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	内臓系（消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器）、神経系（中枢神経、自律神経、脳神経）、感覚器の構造と特徴を学習する。 この科目は「内科診断治療学Ⅰ」「外科診断治療学Ⅰ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」を後期に履修するために必要な知識となる。また同時に開講されている「人体機能学」を理解するための先行知識となっている。
関連科目	1年次：「人体構造機能学基礎」 2年次：「人体機能学」「内科診断治療学Ⅰ」「外科診断治療学Ⅰ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」 3年次：「内科診断治療学Ⅱ」「外科診断治療学Ⅱ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ」
授業の方法	教科書をベースに補助プリントと板書を交えて進行していく。
授業の一般目標 (G10)	・内臓系、神経系、感覚器の構造と特徴を理解し説明できる。 ・同時に開講される人体機能学の理解に繋げることができる。 ・内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱ、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅱを学習するための下地として定着させる。

【担当教員から】

教科書	「解剖学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	解剖学は医学の勉強をするうえで土台となる重要な科目です。臨床の知識を定着させるためには解剖学の知識を修得することが絶対条件となりますので頑張りましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：金 11：00～15：00 後期：金 11：00～15：00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	呼吸器	<ul style="list-style-type: none"> 気道の配列と主な構造の特徴が説明できる。 肺の構造と特徴が説明できる。 胸膜について説明できる。 縦隔について説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4	消化器	<ul style="list-style-type: none"> 中腔性器官の基本構造が説明できる。 消化管の配列と主な構造の特徴が説明できる。 肝臓の基本構造が説明できる。 膵臓の基本構造が説明できる。 胆路を説明できる。 腹膜について説明できる。 腹膜器官と後腹膜器官が区別できる。 	講義	
	5			講義	
	6			講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	泌尿器	<ul style="list-style-type: none"> 腎臓の主な構造の特徴が説明できる。 尿管の走行と狭窄部が説明できる。 膀胱の主な構造の特徴が説明できる。 尿道の走行と主な構造と特徴及び男女の違いが説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12	生殖器	<ul style="list-style-type: none"> 細胞分裂が説明できる。 生殖細胞と減数分裂が説明できる。 各組織、器官の発生が説明できる。 男性生殖器の主な構造の特徴が説明できる。 女性生殖器の主な構造の特徴が説明できる。 	講義	
	13			講義	
	14			講義	
	15			講義	
	16	中枢神経	<ul style="list-style-type: none"> 中枢神経の区分が説明できる。 灰白質、白質と神経節、根が説明できる。 脳室系（髄膜、脳脊髄液の循環を含む）が説明できる。 	講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	中枢神経	<ul style="list-style-type: none"> 脳各部（終脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳）の主な構造の特徴が説明できる。 脊髄の主な構造の特徴が説明できる。 伝導路の概要が説明できる。 自律神経が説明できる。 	講義	
	20			講義	
	21			講義	
	22			講義	
	23	脳神経	<ul style="list-style-type: none"> 脳神経の分類と各脳神経の特徴が説明できる。 	講義	
	24			講義	
	25			講義	
	26			講義	
	27	後期中間試験			試験
	28	感覚器	<ul style="list-style-type: none"> 外皮の主な構造と特徴が説明できる。 視覚器の主な構造と特徴が説明できる。 聴覚器及び平衡器の主な構造と特徴が説明できる。 味覚器の主な構造と特徴が説明できる。 嗅覚器の主な構造と特徴が説明できる。 	講義	
	29			講義	
	30			講義	
	31			講義	
	32	運動器(頭蓋骨、頭頸部の筋)	<ul style="list-style-type: none"> 頭蓋骨の主な構造と特徴が説明できる。 頭蓋底の孔と脳神経との関係（通過する孔）が説明できる。 顎関節の構造と特徴が説明できる。 頭頸部の主要な筋の特徴と作用が説明できる。 	講義	
33	講義				
34	講義				
35	講義				
36	後期期末試験			試験	

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 人体機能学

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	塗々木 和男	
単位数	4単位		とどき かずお	
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 36回

【授業情報】

授業概要	「人体構造機能学」「人体構造学」で先行して学習した内臓系、神経系、感覚器系器官の構造を踏まえて、各器官の機能を詳細に学習する。 この科目は「内科診断治療学Ⅰ」「外科診断治療学Ⅰ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」を後期に履修するために必要な知識となる。
関連科目	1年次：「人体構造機能学基礎」 2年次：「人体構造学」「内科診断治療学Ⅰ」「外科診断治療学Ⅰ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」 3年次：「内科診断治療学Ⅱ」「外科診断治療学Ⅱ」「柔道整復学の適応と鑑別Ⅱ」
授業の方法	教科書をベースに補助プリントと板書を交えて進行していく。
授業の一般目標 (G10)	・内臓系、神経系、感覚器系の生理的知識を理解し説明できる。 ・内科診断治療学Ⅰ、内科診断治療学Ⅱ、外科診断治療学Ⅰ、外科診断治療学Ⅱ、柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ、柔道整復学の適応と鑑別Ⅱを学習するための下地として定着させる。

【担当教員から】

教科書	「生理学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	生理学は医学の勉強をするうえで土台となる重要な科目です。この科目を理解することにより臨床系の科目の修得がスムーズに行くと思います。難しい内容なので理解をするのは大変かもしれませんが頑張りましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火 11:00～15:00 後期：月 11:00～15:00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	循環の生理学	<ul style="list-style-type: none"> 心筋の基本的性質が説明できる。 心電図の棘波の意味が説明できる。 心周期各期の特徴が説明できる。 血圧の意味と測定法が説明できる。 循環の調節機構（神経性、体液性）が説明できる。 身体局所の循環の特徴が説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4			講義	
	5	呼吸の生理学	<ul style="list-style-type: none"> 換気が説明できる。 ガス交換が説明できる。 血液中の酸素及び二酸化炭素の運搬が説明できる。 呼吸調節のしくみが説明できる。 	講義	
	6			講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	消化と吸収	<ul style="list-style-type: none"> 消化管の運動とその調節について説明できる。 消化液の分泌機序が説明できる。 各栄養素の消化、吸収のしくみが説明できる。 消化管ホルモンの特徴、分泌調節と作用が説明できる。 肝臓及び胆嚢の機能が説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12			講義	
	13			講義	
	14	尿の生成と排泄	<ul style="list-style-type: none"> 糸球体ろ過が説明できる。 尿細管の再吸収と分泌が説明できる。 尿の成分が説明できる。 排尿について説明できる。 	講義	
	15			講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	内分泌の機能	<ul style="list-style-type: none"> 内分泌の概説が説明できる。 ホルモンの一般的性質が説明できる。 主要なホルモンの種類と作用が説明できる。 	講義	
	20			講義	
	21			講義	
	22			講義	
	23	神経系の機能	<ul style="list-style-type: none"> 内臓機能の調節機構（自律神経、内臓反射、視床下部）が説明できる。 姿勢と運動の調節が説明できる。 	講義	
	24			講義	
	25			講義	
	26			講義	
	27	後期中間試験			試験
	28	生殖	<ul style="list-style-type: none"> 性分化について説明できる。 精子の形成及び勃起と射精について説明できる。 卵巣周期及び月経周期が説明できる。 妊娠と分娩及び乳汁分泌について説明できる。 	講義	
	29			講義	
	30			講義	
	31			講義	
	32	感覚の生理学	<ul style="list-style-type: none"> 感覚の一般的性質が説明できる。 体性感覚及び内臓感覚の種類と受容器が説明できる。 嗅覚及び味覚の受容器と伝導路が説明できる。 聴覚及び平衡核の受容器と伝導路が説明できる。 視覚の受容器と伝導路が説明できる。 	講義	
33	講義				
34	講義				
35	講義				
36	後期期末試験			試験	

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	森山 浩志	
単位数	2単位		もりやま ひろし	
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 18回

【授業情報】

授業概要	高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰで修得した知識をもとに、そこで得た知識が運動とどのような関わりがあるかを学ぶ。そしてそれが競技者や高齢者ではどのような違いがあるのかを理解していく。この科目は「外傷予防法①」「外傷予防法②」を後期に履修するために必要な知識となる。
関連科目	1年次 : 「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ」 2年次 : 「外傷予防法①」「外傷予防法②」
授業の方法	授業は配布プリントをベースに進める。より学生がイメージをしやすいように、プロジェクターによるスクリーンへの投射をしながらプリントの内容を解説していく。
授業の一般目標 (GIO)	・筋収縮、運動調節、代謝、体温、骨の生理と運動の関わりが説明できる。 ・高齢者及び競技者における、筋収縮、運動調節、代謝、体温、骨の生理と運動の関わりが説明できる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	「生理学」「競技者の外傷予防」
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	生理学的な知識と運動との関わりを理解すると、トレーニングの効果も体への影響にも大きな変化が生じます。難しい内容かと思いますが、しっかりと復習をし知識を定着させ外傷予防法実技へ繋がられるように頑張りましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月 11：00～15：00 後期：月 11：00～15：00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
前期	1	運動と筋肉	・運動と筋肉との関わりが説明できる。	講義
	2	運動と神経	・運動と神経との関わりが説明できる。	講義
	3	運動と呼吸・循環	・運動と呼吸及び循環との関わりが説明できる。	講義
	4	運動とエネルギー代謝	・運動とエネルギー代謝との関わりが説明できる。	講義
	5	運動と体温	・運動と体温との関わりが説明できる。	講義
	6	運動と栄養・代謝・内分泌	・運動と栄養、代謝及び内分泌との関わりが説明できる。	講義
	7	運動と消化・吸収	・運動と消化、吸収との関わりが説明できる。	講義
	8	運動と免疫	・運動と免疫との関わりが説明できる。	講義
	9	前期中間試験		試験
	10	運動と体液	・運動と体液との関わりが説明できる。	講義
	11	運動と骨	・運動と骨との関わりが説明できる。	講義
	12	運動と酸化ストレス	・運動と酸化ストレスとの関わりが説明できる。	講義
	13	運動と認知症予防	・運動と認知症予防との関わりが説明できる。	講義
	14	ロコモティブシンドローム サルコペニア・フレイル	・運動とロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイルとの関わりが説明できる。	講義
	15	運動と循環器系疾患予防	・運動と循環器系疾患予防との関りが説明できる。	講義
	16	運動とメタボリックシンドローム予防	・運動とメタボリックシンドローム予防との関りが予防できる。	講義
	17	運動と糖尿病・癌予防	・運動と糖尿病・癌予防との関りが説明できる。	講義
	18	前期期末試験		試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 疾病の成り立ち

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	難波 亜樹		
単位数	2単位		なんば あき		
必修・選択	必修	時間数	36		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	病理学とは疾病の成り立ちを理解する学問である。それゆえ医学の一番中心となる学問ともいえる。臨床医学を専攻する者は、とすれば臨床にばかり目が向いてしまい、基礎医学を軽視しがちになる傾向がある。そこで、臨床に通じる病理学として、内科的疾患の診断と治療学・臨床柔道整復学・外科的疾患の診断と治療学・運動器疾患の診断と治療学等の臨床科目や、他の基礎医学系科目との関連を重視して、病気に関しての大まかな知識や概念を把握していく。				
関連科目	2年次 : 「人体機能学」「内科診断治療学Ⅰ」「外科診断治療学Ⅰ」「柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ」 3年次 : 「内科診断治療学Ⅱ」「外科診断治療学Ⅱ」「柔道整復学の適応と鑑別Ⅱ」				
授業の方法	教科書をベースに補助プリントと板書を交えて進行していく。				
授業の一般目標 (GIO)	・細胞傷害、循環障害、進行性病変、炎症、免疫異常・アレルギー、先天性異常、腫瘍、病因の概要が説明できる。				

【担当教員から】

教科書	「病理学」				
参考書	特になし				
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。				
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）				
担当教員から一言	風邪をひいた時、転んで怪我をした時、体の中では同じ反応が起きます。この時、体の中の細胞や組織は様々な変化をします。この傷病の際の体内の細胞や組織、臓器の変化を学ぶのが病理学です。傷病について学ぼうとするといつ「症状」に注目しがちですが、「体内の細胞や組織、臓器の変化」を知ることで疾病の原因説明、予防法や治療法の研究につなげることができます。自分の体がどのような変化を遂げるのか一緒に学んでいきましょう。				
自主学習	予習：必要なし 復習：必須				
オフィスアワー	前期：水 9：30～16：40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く				

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	細胞傷害	<ul style="list-style-type: none"> 細胞傷害の定義が説明できる。 萎縮の種類が説明できる。 変性の定義、分類が説明できる。 代謝障害と疾病が説明できる。 壊死の定義、分類及びアポトーシスが説明できる。 死の定義、判定、死後の変化が説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3	循環障害	<ul style="list-style-type: none"> 血液の循環障害が説明できる。 リンパ液の循環障害が説明できる。 脱水症が説明できる。 高血圧の基準、合併症、分類が説明できる。 	講義	
	4			講義	
	5	進行性病変	<ul style="list-style-type: none"> 進行性病変（肥大、過形成、再生、化生、創傷治癒）が説明できる。 	講義	
	6	炎症	<ul style="list-style-type: none"> 炎症の原因、形態学的変化が説明できる。 炎症の分類が説明できる。 	講義	
	7	免疫異常・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> 免疫の仕組みが説明できる。 免疫不全が説明できる。 自己免疫疾患が説明できる。 アレルギーが説明できる。 	講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	先天性異常	<ul style="list-style-type: none"> 先天性異常の概説が説明できる。 奇形の原因が説明できる。 奇形成立の時期が説明できる。 奇形の種類が説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12	腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> 腫瘍の概念が説明できる。 腫瘍の分類ができる。 主な癌が説明できる。 	講義	
	13			講義	
	14			講義	
	15	病因	<ul style="list-style-type: none"> 病気の内因が説明できる。 病気の外因が説明できる。 	講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 人体機能回復論

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	長田 卓也		
単位数	4単位		おさだ たくや		
必修・選択	必修	時間数	72		
開講学期	前期	後期	業形態・回	講義	36回

【授業情報】

授業概要	人体機能回復論はリハビリテーションの概要を学習する科目である。前期は、リハビリテーションという用語、医療におけるその位置づけを理解し、その対象となる病態の評価法を学ぶ。またリハビリテーション医学に関わる職種とその業務の概要を理解し、脳卒中や脊髄損傷に対するリハビリテーションの手法を学ぶ。後期は、機能訓練の概要と機能訓練施設の現状を理解し、患者や利用者提供する機能訓練の内容と手法を学ぶ。				
関連科目	3年次 : 「柔整社会学」				
授業の方法	教科書をベースに補助プリントとパワーポイントを用いて進行していく。				
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none">・リハビリテーションという用語を理解し、評価法及び業務の内容が説明できる。・脳卒中及び脊髄損傷の概要とそのリハビリテーションの手法が説明できる。・機能訓練の概要及び機能訓練施設の現状が説明できる。・現場で実施されている機能訓練の内容と手法を理解し説明できる。				

【担当教員から】

教科書	「リハビリテーション医学」「柔道整復師と機能訓練指導」				
参考書	特になし				
成績評価基準	○授業の理解度 <ul style="list-style-type: none">・基本的知識の修得・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期に行う各中間試験、期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。				
	【評価詳細】 中間試験の評価割合：中間試験（100%） 期末試験の評価割合：期末試験（100%）				
担当教員から一言	現在リハビリテーションの分野には、多くの柔道整復師が関わっています。この授業でリハビリテーション分野での柔道整復師の役割を理解し、自身の将来の仕事を考える術になれば幸いです。				
自主学习	予習：必要なし 復習：必須				
オフィスアワー	前期：水 11:00～15:00 後期：水 9:30～15:00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く				

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SBOs)	授業形態	
前期	1	リハビリテーションの理念-1	・リハビリテーションの概念, 語源を説明できる。	講義	
	2	リハビリテーションの理念-2	・自立生活、ノーマライゼーションやバリアフリーを説明できる。	講義	
	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態-1	・医学的リハビリテーションと障害者を理解する。	講義	
	4	リハビリテーションの対象と障害者の実態-2	・リハビリテーション医学の対象（障害）について理解できる。	講義	
	5	障害の階層とアプローチ-1	・ICIDHの分類と概要及びアプローチが理解し説明できる。	講義	
	6	障害の階層とアプローチ-2	・ICFとICIDHの違いが説明できる。	講義	
	7	リハビリテーション評価学-1	・運動学と機能解剖について理解し説明できる。	講義	
	8	リハビリテーション評価学-2	・ADL、バーセル指数の項目と評価の概要を理解し説明できる。 ・FIMの項目と評価の概要を理解し説明できる。	講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	リハビリテーション評価学-3	・小児運動発達、認知機能の評価が説明できる。	講義	
	11	リハビリテーション評価学-4	・電気生理学的検査、画像診断、運動失調について説明できる。	講義	
	12	リハビリテーション障害学と治療学-1	・障害の評価、関節拘縮	講義	
	13	リハビリテーション障害学と治療学-2	・中枢性と末梢性神経麻痺に概要を理解し説明できる。 ・ブルーンストローム法が理解できる。	講義	
	14	リハビリテーション障害学と治療学-3	・痙縮の評価法が説明できる。 ・摂食嚥下障害の概要を理解し説明できる。	講義	
	15	リハビリテーション障害学と治療学-4と関連職種	・高次機能障害の評価法と概要が説明できる。	講義	
	16	リハビリテーション治療技術-1	・理学療法を説明できる。	講義	
	17	リハビリテーション治療技術-2	・作業療法を説明できる。	講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	リハビリテーション治療技術-3	・言語聴覚療法を説明できる。	講義	
	20	リハビリテーション治療技術-4	・補装具について説明できる。	講義	
	21	高齢者のリハビリテーション-1	・平均寿命と健康需要、フレイルについて説明できる。	講義	
	22	高齢者のリハビリテーション-2	・脳卒中のリハビリテーションを説明できる。	講義	
	23	運動器のリハビリテーション-1	・骨折治療と後療法について説明できる。	講義	
	24	運動器のリハビリテーション-2	・骨粗鬆症の病態が説明できる。	講義	
	25	運動器のリハビリテーション-3	・上肢損傷後症候群の特徴が説明できる。	講義	
	26	運動器のリハビリテーション-4	・下肢損傷後症候群の特徴が説明できる。	講義	
	27	後期中間試験			試験

後期	28	運動器のリハビリテーション-5	・頸腕症候群、他骨折の後療法が説明できる。	講義
	29	リハビリテーションと福祉-1	・社会福祉の内容を説明できる。	講義
	30	リハビリテーションと福祉-2	・リハビリテーションと介護保険の関係を説明できる。	講義
	31	障害者スポーツ-1	・障害者スポーツの概要を説明できる。	講義
	32	障害者スポーツ-2	・治療的、生涯、競技スポーツの目的を理解できる 理解し説明できる。	講義
	33	ロコモティブシンドローム	・ロコモティブシンドロームの概念と予防のためのトレーニングが説明できる。	講義
	34	機能訓練指導員と機能訓練	・機能訓練指導員の概要が説明できる。	講義
	35	機能訓練指導員の業務	・機能訓練指導員の業務内容を理解し説明できる。	講義
	36	後期期末試験		試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 内科診断治療学Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	杉山 友彦		
単位数	2単位		すぎやま ともひこ		
必修・選択	必修	時間数	36		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	この科目は人体構造学、人体機能学、疾病の成り立ちで先行して修得した知識をもとに、内科疾患（正常構造及び機能の乱れた状態）について学習する。この科目は「内科診断治療学Ⅱ」「柔整関連医学Ⅱ②」を履修するために必要な知識となる。また3年次の「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。				
関連科目	1年次：「人体構造機能学基礎」 2年次：「人体構造学」「人体機能学」「疾病の成り立ち」 3年次：「内科診断治療学Ⅱ」「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅱ②」				
授業の方法	教科書をベースに板書、パワーポイントを用いて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。				
授業の一般目標 (GIO)	・主要な内科疾患の基本事項を理解し、その特徴及び症状が説明できる。 ・学習した内科的疾患について、解剖生理学的な裏付けをもとに病態生理が説明できる。				

【担当教員から】

教科書	「一般臨床医学」				
参考書	特になし				
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。				
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。				
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）				
担当教員から一言	将来的に整形外科領域の医師と接する機会があっても、あまり、内科医と接することは少ないかもしれません。柔整師としての知識のウィークポイントでもあります。医師が行う講義として臨場的な臨場感を持った現場の臭いをお伝えできれば幸いです。皆様が将来渡って行かねばならない医療という洪大な世界の道標や燈明になれば幸いです。				
自主学習	予習：必要なし 復習：必須				
オフィスアワー	前期：水 11:00～15:00 後期：水 11:00～16:40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く				

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
後期	1	診察各論	<ul style="list-style-type: none"> ・視診の意義と方法を理解し、身体各部の所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・打診の意義と方法を理解し、その所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・聴診の意義と方法を理解し、その所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・触診の意義と方法を理解し、その所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・生命徴候を理解し、その所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・感覚検査の意義と方法を理解し、その検査所見から罹患の可能性のある疾患を推測することができる。 ・代表的な臨床症状を理解し、その症状から罹患している可能性のある疾患を推測することができる。 	講義
	2			講義
	3			講義
	4			講義
	5			講義
	6			講義
	7			講義
	8			講義
	9	後期中間試験		試験
	10			講義
	11			講義
	12	循環器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・狭心症の概説、原因、分類、症状、診断が説明できる。 ・急性心筋梗塞の概説、原因、症状、診断が説明できる。 ・高血圧症の概説、症状、治療が説明できる。 	講義
	13			講義
	14			講義
	15	消化器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・消化性潰瘍の概説、原因、症状が説明できる。 ・潰瘍性大腸炎の概説、症状を理解し鑑別疾患が説明できる。 ・肝炎の概説、原因、分類、症状、予後が説明できる。 ・肝硬変の概説、原因、症状、合併症が説明できる。 ・消化器系癌の概説と主要症状が説明できる。 	講義
	16			講義
	17			講義
	18	後期期末試験		試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 疾病と傷害

【科目】 外科診断治療学Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	根本 学		
単位数	2単位		ねもと まなぶ		
必修・選択	必修	時間数	36		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	この授業では、柔道整復術の適応の可否を適切に判断に必要となる、損傷、外科感染症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、手術、麻酔、といった外科領域のについての基本事項を学ぶ。この科目は「外科診断治療学Ⅱ」「柔整関連医学Ⅰ②」を履修するために必要な知識となる。また3年次の「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。
関連科目	1年次：「人体構造機能学基礎」 2年次：「人体構造学」「人体機能学」「疾病の成り立ち」 3年次：「外科診断治療学Ⅱ」「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅰ②」
授業の方法	教科書をベースに板書を交えて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。毎回の授業の始めに授業の振り返りの小テストを実施し知識の定着を図る。
授業の一般目標 (G10)	・損傷、外科感染症、腫瘍、ショック、輸血・輸液、手術、麻酔、についての外科領域の基本事項を理解し、説明できる。

【担当教員から】

教科書	「外科学概論」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	外科領域の疾患や外傷は柔道整復師が遭遇する可能性のあるものが多々あります。ここでの勉強を柔道整復師のキャリアに役立ててもらえれば幸いです。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：木 11:00～15:10 後期：木 11:00～15:10 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
後期	1	損傷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 損傷の分類及び重症度の判定ができる。 ・ 特殊な損傷の概念と原因が説明できる。 (びらん、潰瘍、瘻孔、裂傷、壊疽、壊死) ・ 創傷処置の概要が説明できる。 ・ 熱傷の程度による分類、症状、合併症、治療の概要が説明できる。 ・ 凍傷の程度による分類、治療の概要が説明できる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4			講義	
	5	外科感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な外科感染症の概念、原因、症状が説明できる。 (菌血症、敗血症、蜂巣炎、膿瘍、癰・癤、丹毒、リンパ管炎、化膿性骨髄炎、結核、梅毒、ガス壊疽、破傷風、咬傷、放射菌症、真菌症) ・ 腫瘍の診断法の概要が説明できる。 ・ 腫瘍の治療法の概要が説明できる。(手術療法、放射線療法、化学療法、内分泌療法、免疫療法、温熱療法) 	講義	
	6			講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	後期中間試験			試験
	10	ショック	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショックの定義及び症状が説明できる。 ・ ショックの発生机序による分類とその概要が説明できる。 ・ ショックの臨床上の分類が説明できる。 ・ ショックの応急処置と治療の概要が説明できる。 	講義	
	11			講義	
	12	輸血、輸液	<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸血及び輸液の目的と適応が説明できる。 ・ 輸血及び輸液の合併症と副作用の説明ができる。 ・ 血液型及び交叉適合試験について説明できる。 	講義	
	13			講義	
	14	手術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の病気、手術の侵襲度、手術の根治性からみた分類ができる。 ・ 術式の概念が説明できる。(皮膚切開法、止血術、縫合法、穿刺術、切開術、切除術、摘出術、切断術、吻合術) 	講義	
	15			講義	
	16	麻酔	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔の術前の患者管理(麻酔前投薬)について説明できる。 ・ 全身麻酔(吸入麻酔、静脈麻酔)の概念が説明できる。 ・ 局所麻酔(表面麻酔、浸潤麻酔、腰椎麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック)の概念が説明できる。 	講義	
	17			講義	
	18	後期期末試験			試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門基礎分野 柔道整復術の適応

【科目】 柔道整復術の適応と鑑別Ⅰ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	樫山 政宏	
単位数	2単位		かしま まさひろ	
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	18回

【授業情報】

授業概要	この授業ではX線撮影、コンピュータ断層撮影、MRI画像、超音波の正常像の理解と読影の手法を学ぶ。また、柔道整復師が遭遇しうる整形外科領域の疾患を学び、臨床現場に於いてその症状から病態を推測し、柔道整復術の適応の可否を判断するとともに、医療機関への搬送などの適切な対応をすることができる能力を養う。この科目は「柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ」「柔整関連医学Ⅱ②」を履修するために必要な知識となる。また3年次の「柔整応用治療論」において、施術適応の可否を判断するために必要な知識となっている。
関連科目	1年次：「人体構造機能学基礎」 2年次：「人体構造学」「人体機能学」「疾病の成り立ち」 3年次：「柔道整復術の適応と鑑別Ⅱ」「柔整応用治療論」「柔整関連医学Ⅱ②」
授業の方法	教科書をベースに板書、補助プリントを用いて、学生が理解しやすいように配慮し進行していく。
授業の一般目標 (GIO)	・X線撮影、コンピュータ断層撮影、MRI画像、超音波の特性を理解し説明できる。 ・整形外科的疾患を理解し、その特徴と症状が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「施術の適応と医用画像の理解」「整形外科学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	画像の読影は慣れるまでは難しいと思いますが、運動器の正常構造をしっかりと理解していることが画像理解の第一歩となります。1年次に学習した運動器の授業をしっかりと振り返り頑張りましょう。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火 11:00～15:00 後期：火 11:00～15:00 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
後期	1	医用画像の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・X線撮影、コンピュータ断層撮影、MRI、関節造影検査、血管造影検査、核医学検査、超音波の概要が説明できる。 ・X線撮影、コンピュータ断層撮影、MRI画像、超音波の正常像を理解し、異常所見を判断することができる。 	講義	
	2			講義	
	3			講義	
	4	その他整形外科検査法	・骨密度、電気生理学的検査、関節鏡検査の概要が説明できる。	講義	
	5	感染性疾患	・整形外科領域で見られる感染性疾患の種類と各疾患の概要が説明できる。	講義	
	6			講義	
	7	骨及び軟部腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ・悪性及び良性骨腫瘍の種類と各腫瘍の概要が説明できる。 ・悪性及び良性軟部腫瘍の種類と各腫瘍の概要が説明できる。 	講義	
	8			講義	
	9	後期中間試験			試験
	10	非感染性軟部・骨疾患	・整形外科領域で見られる非感染性軟部・骨疾患の種類と各疾患の概要が説明できる。	講義	
	11			講義	
	12	全身性の骨・軟部疾患	・整形外科領域で見られる全身性の骨・軟部疾患の種類と各疾患の概要が説明できる。	講義	
	13			講義	
	14	骨端症	・骨端症の種類と各骨端症の概要が説明できる。	講義	
	15			講義	
	16	神経・筋疾患	・整形外科領域で見られる全身性の神経・筋疾患の種類と各疾患の概要が説明できる。	講義	
	17			講義	
	18	後期期末試験			試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 上肢の損傷・治療論

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	松田 卓也	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	4単位		まつだ たくや	接骨院勤務(7年)、整形外科勤務(1年) 接骨院開業(15年)
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	この授業では、上肢帯～手指までの骨折について学習する。前半は発生機序と症状を理解することに重点を置き、合わせて合併症を学んでいく。後半は、臨床で診る可能性の高い骨折を中心にその施術方法を学ぶ。この科目は3年次の柔整応用治療法Ⅰ、柔整応用治療法Ⅱを履修するうえで必要とする知識を修得する科目となっている。
実務経験の反映	20年間の臨床経験の中での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」 2年次 : 「応用診察治療法①」 3年次 : 「柔整応用治療論①」「柔整応用治療法Ⅰ」「柔整応用治療法Ⅱ」
授業の方法	教科書及び配付プリントをベースとし、板書を交えて展開する。必要に応じ動画のスライドを用いて理解が深まるように進めていく。
授業の一般目標 (GIO)	・上肢帯～手指までの骨折の発生機序、症状、合併症及び施術の概要が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	外傷を見極め施術し、治癒に導くことが柔道整復師の使命です。その第一歩として上肢における外傷の特徴をしっかりと理解しましょう。わからないことがあればどんどん質問して下さい。しっかりと復習をして知識を定着させましょう。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：木 9：30～16：40 後期：木 9：30～16：40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	上肢帯の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折の概要及び発生機序を説明できる。 鎖骨骨折の症状を説明できる。 	講義	
	2		<ul style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折の合併症を説明できる。 肩甲骨骨折の概要及び発生機序を説明できる。 	講義	
	3		<ul style="list-style-type: none"> 肩甲骨骨折の症状を説明できる。 肩甲骨骨折の合併症を説明できる。 	講義	
	4	上腕骨近位端部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨近位端部骨折の分類ができる。 上腕骨頭、解剖頸骨折の発生及び症状、合併症が説明できる。 	講義	
	5		<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨外科頸骨折の概要及び発生機序を説明できる。 上腕骨外科頸骨折の症状が説明できる。 	講義	
	6		<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨外科頸骨折の合併症が説明できる。 大結節、小結節、骨端線離開の発生及び症状、合併症が説明できる。 	講義	
	7	上腕骨骨幹部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨骨幹部骨折の概要及び発生機序を説明できる。 上腕骨骨幹部骨折の症状が説明できる。 	講義	
	8		<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨骨幹部骨折の合併症が説明できる。 	講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	上腕骨遠位端部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨遠位端部骨折の分類ができる。 上腕骨顆上骨折の概要及び発生機序を説明できる。 	講義	
	11		<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨顆上骨折の症状を説明できる。 上腕骨顆上骨折の合併症を説明できる。 	講義	
	12		<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨外顆骨折、内側上顆骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	13	前腕骨近位端部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 橈骨頭、橈骨頸部、肘頭骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	14	前腕骨骨幹部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 橈骨単独、尺骨単独、両骨骨幹部骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	15		<ul style="list-style-type: none"> モンテギア骨折、ガレアッジ骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	16	前腕骨遠位端部の骨折	<ul style="list-style-type: none"> コーレス骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	17		<ul style="list-style-type: none"> スミス骨折、バートン骨折、ショウファー骨折の概要、発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19	手根骨の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 舟状骨骨折、月状骨骨折、その他の手根骨骨折の発生機序、症状、合併症を説明できる。 	講義	
	20		講義		
	21	中手骨の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 中手骨骨折の分類、発生機序、症状が説明できる。 	講義	
	22		<ul style="list-style-type: none"> ベネット骨折の概要、発生機序、症状が説明できる。 ローランド骨折の概要が説明できる。 	講義	
	23	指骨の骨折	<ul style="list-style-type: none"> 指骨骨折（基節骨、中節骨、末節骨）の概要と症状が説明できる。 	講義	
	24		<ul style="list-style-type: none"> マレットフィンガーの概要、分類、症状が説明できる。 	講義	
	25	鎖骨骨折の施術	<ul style="list-style-type: none"> 鎖骨骨折の整復、固定、後療法の概要が説明できる。 	講義	
	26		講義		
	27	後期中間試験			試験
	28	上腕骨外科頸骨折の施術	<ul style="list-style-type: none"> 上腕骨外科頸骨折の整復、固定、後療法の概要が説明できる。 	講義	
	29		講義		
	30	橈骨遠位端部骨折の施術	<ul style="list-style-type: none"> 橈骨遠位端部骨折の整復、固定、後療法の概要が説明できる。 	講義	
	31		講義		
	32		講義		
33	指骨骨折の施術	<ul style="list-style-type: none"> 指骨骨折の整復、固定、後療法の概要が説明できる。 	講義		
34		講義			
35		講義			
36	後期期末試験			試験	

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 臨床柔道整復学

【科目】 下肢の損傷・治療論

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	田中 秀和	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	4単位		たなか ひでかず	整形外科勤務(4年)、接骨院勤務(2年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(20年)
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	この授業では、骨盤部～足指までの骨折及び脱臼について学習する。発生機序と症状を理解することに重点を置き、合わせて合併症を学んでいく。この科目は並行して開講されている応用診察治療法②とともに、3年次の柔整応用治療論で損傷判定を行うために必須の知識、柔整応用治療法Ⅰを履修するうえで必要とする知識を修得する科目となっている。
実務経験の反映	整形外科及び接骨院での自身の経験を随時取り入れながら進めていく。特にスタンダードである教科書に対して臨床の実際を学生に伝えていく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」 2年次 : 「応用診察治療法②」 3年次 : 「柔整応用治療法Ⅰ」
授業の方法	教科書及び配付プリントをベースとし、板書を交えて展開する。転位を理解させるために骨模型を用いて、転位の状況を考えさせ理解が深められるようにしていく。
授業の一般目標 (GIO)	・骨盤部～足指までの骨折及び脱臼の発生機序、症状、合併症が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を後期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	外傷を見極め施術し、治癒に導くことが柔道整復師の使命です。その第一歩として下肢における外傷の特徴をしっかりと理解しましょう。わからないことがあればどんどん質問して下さい。しっかりと復習をして知識を定着させましょう。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月 9：30～16：40 後期：月 9：30～16：40 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	骨盤骨骨折	・骨盤骨単独骨折の概要,分類、及び症状が説明できる。	講義	
	2		・骨盤骨輪骨折の概要及び症状が説明できる。	講義	
	3	大腿骨近位端部の骨折	・骨頭骨折の概要が説明できる。 ・頸部骨折の概要、分類、発生機序が説明できる。	講義	
	4		・頸部骨折の症状、合併症が説明できる	講義	
	5		・転子部骨折の概要,症状が説明できる	講義	
	6	大腿骨骨幹部の骨折	・骨幹部骨折の概要、発生機序、分類が説明できる。	講義	
	7		・骨幹部骨折の症状、合併症が説明できる。	講義	
	8	大腿骨遠位端部の骨折	・顆上骨折の発生機序、分類、症状が説明できる。	講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	大腿骨遠位端部の骨折	・遠位骨端線離開の概要、分類、発生機序、症状、合併症が説明できる。	講義	
	11		・顆部骨折の概要、分類、症状が説明できる。 ・内側側副靭帯付着部裂離骨折の概要が説明できる。	講義	
	12	下腿骨近位端部の骨折	・顆部骨折の概要、分類、発生機序、症状、合併症が説明できる。	講義	
	13		・顆間隆起骨折の概要、分類、発生機序、症状が説明できる。	講義	
	14		・脛骨粗面骨折の分類、発生機序、症状、鑑別診断が説明できる。 ・腓骨頭単独骨折の発生機序が説明できる。	講義	
	15	膝蓋骨の骨折	・膝蓋骨骨折の概要、分類、発生機序、症状、鑑別診断が説明できる。	講義	
	16	下腿骨幹部の骨折	・下腿骨骨幹部骨折の概要、脛腓単独骨折の概要、脛腓両骨骨折の発生機序が説明できる。	講義	
	17		・脛腓両骨骨折の転位、症状、後遺症が説明できる。	講義	
	18	前期期末試験			試験
後期	19		・腓骨骨幹部単独骨折の発生機序、転位、症状が説明できる。	講義	
	20	下腿骨幹部の骨折	・下腿骨果上骨折の概要、発生機序、転位、症状が説明できる。 ・下腿骨疲労骨折の概要、分類、発生機序、症状が説明できる。	講義	
	21	下腿骨遠位部の骨折	・果部骨折の概要、分類が説明できる。	講義	
	22		・果部骨折の発生機序が説明できる。	講義	
	23		・果部骨折の症状、後遺症が説明できる。	講義	
	24	足根骨部の骨折	・距骨骨折の概要、分類、発生機序、症状、予後が説明できる。	講義	
	25		・踵骨骨折の概要、分類、発生機序、症状、予後が説明できる。	講義	
	26	足根骨の骨折	・舟状骨、立方骨、楔状骨の発生機序、症状が説明できる。	講義	
	27	後期中間試験			試験
	28	中足骨の骨折	・中足骨骨折の分類、発生機序、症状、予後が説明できる。	講義	
	29	趾骨の骨折	・趾骨骨折の発生機序、症状、予後が説明できる。	講義	
	30	股関節脱臼	・股関節脱臼の概要、分類、合併症、後遺症が説明できる。 ・後方脱臼の発生機序、症状、整復障害が説明できる。	講義	
	31		・前方脱臼、中心性脱臼の発生機序、症状が説明できる。	講義	
	32	膝関節脱臼	・膝関節脱臼の概要、発生機序、分類、合併症、後遺症が説明できる。	講義	
	33	膝蓋骨脱臼	・膝蓋骨脱臼の概要、外側脱臼の発生機序、分類、症状が説明できる。	講義	
	34	足根部の脱臼	・ショパール関節脱臼、リスフラン関節脱臼の発生機序が説明できる。	講義	
	35	中足趾関節、趾節間関節の脱臼	・中足趾関節、趾節間関節脱臼の概要、発生機序、症状が説明できる。	講義	
	36	後期期末試験			試験

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	東 佑樹	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		あずま ゆうき	学校法人 呉竹学園附属施術所(7年) 接骨院勤務(7年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	講義 18回

【授業情報】

授業概要	この授業では、外傷でなく障害を中心に扱っていく。身体の使いすぎや不良な使い方によって発生する障害に対し、そこまですってしまった原因に目を向けることの重要性を理解する。また、身体機能を評価する上で必要となる身体運動力学や歩行についても取り扱っていく。
実務経験の反映	臨床現場にて、慢性痛を有する患者さんやスポーツ障害への対応を自身の経験と授業をリンクさせながら説明する。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」「柔整外傷保存療法」 2年次 : 「外傷予防法①」 3年次 : 「柔整応用治療論」
授業の方法	配布資料をベースに板書を交えて展開していく。
授業の一般目標 (G10)	・マッスルインバランスの概要が説明できる。 ・障害に対する評価の方針が説明できる。

【担当教員から】

教科書	「運動学」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○年間成績：前期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（100%）
担当教員から一言	スポーツ活動のみならず、ライフスタイルや労働環境による運動器機能の破綻は少なくありません。デスクワークによる股関節屈曲位拘縮や肩関節内旋位拘縮などもその例です。障害は身体の使いすぎや不良な使い方によって発生します。実際に痛みを発している箇所だけにとらわれるのではなく、痛みが発生するに至った原因を見つけていくために患部外の評価にもしっかりと目を向けていけるような考え方を共有していきたいと思います。
自主学习	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：月～金 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標(SB0s)	授業形態	
前期	1	筋骨格系疼痛症候群に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> マッスルインバランスを理解し、特徴とその弊害について説明できる。 ヤンダの筋分類について説明できる。 	講義	
	2	身体運動学	<ul style="list-style-type: none"> 並進運動と回転運動について説明できる。 ベクトルを理解し、力の合成と分解ができる。 モーメントについて説明できる。 てこについて説明できる。 筋による関節運動をてこの分類を用いて説明できる。 ニュートンの運動法則について説明できる。 	講義	
	3			講義	
	4	姿勢	<ul style="list-style-type: none"> 構えと体位について説明できる。 重心について説明できる。 立位姿勢において重心線と安定性について説明できる。 抗重力筋について説明できる。 不良姿勢について説明できる。 	講義	
	5			講義	
	6	歩行	<ul style="list-style-type: none"> 歩行の用語について説明できる。 歩行周期について説明できる。 歩行時の関節運動について説明できる。 歩行時の筋活動について説明できる。 異常歩行について説明できる。 	講義	
	7			講義	
	8			講義	
	9	前期中間試験			試験
	10	診察概論	<ul style="list-style-type: none"> SOAP方式による診察について説明できる。 	講義	
	11	骨盤のアライメントと評価	<ul style="list-style-type: none"> 骨盤と股関節の関係性を説明できる。 股関節の屈曲位拘縮について説明できる。 骨盤のアライメント評価について説明できる。 仙腸関節について説明できる。 	講義	
	12			講義	
	13			講義	
	14	コアの機能と評価	<ul style="list-style-type: none"> コアスタビリティと可動域について説明できる。 	講義	
	15	腰部痛に対する評価と治療方針	<ul style="list-style-type: none"> 椎間関節性腰痛について説明できる。 仙腸関節性腰痛について説明できる。 腰痛の患部外の評価について説明できる。 	講義	
	16			講義	
	17			講義	
	18	前期期末試験			試験

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 応用診察治療法

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	工藤 大介	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		くどう だいすけ	接骨院勤務(3年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(15年)
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	応用診察治療法は上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の概要を理解し、その検査法の手法を学習する科目である。各部位の理解をより深めるため、①上肢、体幹 ②下肢にパートを分け授業を進行していく。 応用診察治療法①では上肢の軟部組織損傷全般についての概要を理解するとともに、上肢の各軟部組織損傷に対する診察及び検査の手法を学び、並行して開講されている上肢の損傷・治療論とともに、3年次の体幹の損傷・治療論、柔整応用治療論で損傷判定を行うために必須の知識、柔整応用治療法Ⅱで必要とする技術を修得授業となっている。また、障害を理解するにあたり必要となる解剖を振り返るとともに超音波画像を用いた局所の画像を理解する。
実務経験の反映	臨床経験で培った、臨床ならではの診察のポイントと注意点（患者の緊張を和らげる、信頼関係を築くための話口調）などを自身の経験談を交え伝えていく。
関連科目	1年次：「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」「柔整後療治療論」 2年次：「上肢の損傷・治療論」 3年次：「柔整応用治療論」「柔整応用治療法Ⅱ」 臨床実習：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価（診察の補助・施術の補助）
授業の方法	実技実施の前に座学的知識を先行して講義し、解剖学的構造及び理論に基づいた実技が行えるように進行する。
授業の一般目標 (G10)	・上肢の軟部組織損傷の概要を理解し説明できる。 ・上肢の軟部組織損傷の診察及び検査法が実施できる。 ・上肢の超音波画像と運動器の知識をリンクさせることができる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技術の修得 ・知識、技術の習熟度と应用能力の有無 →前期・後期に行う各中間試験、期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 応用診察治療法①、②の総合評価を応用診察治療法の評価とする。 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ※中間試験・期末試験では柔整応用治療論①（100点満点）・柔整応用治療論②（100点満点）の試験を実施しその平均点を応用診察治療法の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
担当教員から一言	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（実技知識確認試験）（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（実技技能試験）（実技知識確認試験）（100%） 上肢の骨折・脱臼以外の軟部組織損傷には、どのようなものがあるのか確認します。その上で損傷箇所を触診で探り出し、他の損傷との鑑別をするための検査法を勉強します。全身観察・問診（主訴・発生機序・既往症など）・視診・触診・検査という診察の流れを適切に行えれば、患者さんの心身への負担を減らす事ができます。ぜひ興味を持って授業に臨んでください！
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土 9：00～17：45 後期：火～土 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	肩関節部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 肩関節の軟部組織損傷の概要を理解し、損傷の部位を的確に判断するための発生機序、症状、検査法を説明することができる。 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技	
	2			実技	
	3			実技	
	4			実技	
	5			実技	
	6			実技	
	7			実技	
	8			実技	
	9	前期中間試験（実技知識確認試験）			試験
	10	肘関節部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 上腕部、肘部の軟部組織損傷の概要を理解し、損傷の部位を的確に判断するための発生機序、症状、検査法を説明することができる。 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技	
	11			実技	
	12			実技	
	13			実技	
	14	肩関節部・肘関節部の軟部組織損傷の検査法の検査法の確認	<ul style="list-style-type: none"> 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技	
	15			実技	
	16			実技	
	17	前期期末（実技技能試験）			試験
	18	前期期末試験（実技知識確認試験）			試験
後期	19	前腕部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 前腕部の軟部組織損傷の概要を理解し、損傷の部位を的確に判断するための発生機序、症状、検査法を説明することができる。 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技	
	20			実技	
	21	手関節・手部・指部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 手関節部・手部・指部の軟部組織損傷の概要を理解し、損傷の部位を的確に判断するための発生機序、症状、検査法を説明することができる。 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技	
	22			実技	
	23			実技	
	24			実技	
	25	上肢の神経損傷	<ul style="list-style-type: none"> 上肢における神経損傷の概要を理解し、損傷の部位を的確に判断するための発生機序、症状、検査法を説明することができる。 	実技	
	26			実技	
	26	後期中間試験（実技知識確認試験）			試験
	28	深部腱反射	<ul style="list-style-type: none"> 腱反射の概要が説明できる。 主な腱反射が実施できる。 	実技	
	29	椎間板ヘルニア	<ul style="list-style-type: none"> 頸椎椎間板ヘルニアの症状が説明できる。 頸部の神経根障害に対する検査法が実施できる。 腰椎椎間板ヘルニアの症状が説明できる。 腰部の神経根障害の検査法が実施できる。 	実技	
	30			実技	
	31	胸郭出口症候群	<ul style="list-style-type: none"> 胸郭出口症候群の症状が説明できる。 胸郭出口症候群に対する検査法が実施できる。 	実技	
	32			実技	
33	前腕部・手関節・手部・指部・体幹部の軟部組織損傷と、上肢・体幹の神経損傷の検査法の確認	<ul style="list-style-type: none"> 損傷の判定及び鑑別のための検査を実施することができる。 	実技		
34			実技		
35	後期期末（実技技能試験）			試験	
36	後期期末試験（実技知識確認試験）			試験	

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	横井 大遥	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	2単位		よこい ともりのり	接骨院勤務(5年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(3年)
必修・選択	必修	時間数	72	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	応用診察治療法は上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の概要を理解し、その検査法の手法を学習する科目である。各部位の理解をより深めるため、①上肢、②下肢、体幹にパートを分け授業を進行していく。 応用診察治療法②では下肢の軟部組織損傷全般についての概要を理解するとともに、下肢の軟部組織損傷に対する診察及び検査の手法を学ぶ。並行して開講されている下肢の損傷・治療論とともに、3年次の柔整応用治療論で損傷判定を行うために必須の知識、柔整応用治療法Ⅰで必要とする技術を修得する。
実務経験の反映	臨床経験で培った、臨床ならではの診察のポイントと注意点（患者の緊張を和らげる、信頼関係を築くための話口調）などを自身の経験談を交え伝えていく。
関連科目	1年次：「運動器の機能構造Ⅰ」「柔整外傷論基礎」「柔整後療治療論」 2年次：「下肢の損傷・治療論」 3年次：「柔整応用治療論」「柔整応用治療法Ⅰ」 臨床実習：「臨床実習Ⅱ」「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」の実習前評価（診察の補助・施術の補助）
授業の方法	実技実施の前に座学的知識を先行して講義し、解剖学的構造及び理論に基づいた実技（診察・鑑別と検査法）が行えるように進行する。
授業の一般目標 (GIO)	・下肢の軟部組織損傷の概要を理解し説明できる。 ・下肢の軟部組織損傷に対する診察及び検査法が実施できる。

【担当教員から】

教科書	「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と应用能力の有無 →前期・後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 応用診察治療法①、②の総合評価を応用診察治療法の評価とする。 ○前期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ○後期成績：中間試験（100点満点）と期末試験（100点満点）を実施しその平均を前期最終成績とする。 ※中間試験・期末試験では柔整応用治療論①（100点満点）・柔整応用治療論②（100点満点）の試験を実施しその平均点を応用診察治療法の成績とする。 ○年間成績：前期最終成績と後期最終成績の平均を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○中間試験の評価割合：中間試験（実技知識確認試験）（100%） ○期末試験の評価割合：期末試験（実技技能試験）（実技知識確認試験）（100%）
担当教員から一言	柔道整復師の活躍の場は接骨院をはじめ医療機関・スポーツ現場など広がってきている。どの場面においても下肢の軟部組織損傷は臨床現場で遭遇する機会がとて多い疾患である。本授業は各疾患に対する知識・評価方法を身につける事で臨床力の向上を目的に行うものである。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	前期：火～土 9:00～17:45 後期：月～金 9:00～17:45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】					
学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態	
前期	1	股関節部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 股関節部の解剖学的特徴を説明できる。 主な股関節の軟部組織損傷の症状・所見・施術法を説明できる。 トーマステスト、尻上がり現象の臨床的意義を理解し説明することができる。 股関節部の軟部組織損傷の検査法の臨床的意義を理解し実施することができる。 	実技	
	2			実技	
	3			実技	
	4			実技	
	5			実技	
	6	大腿部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 大腿部の筋（大腿四頭筋、ハムストリングス）の解剖学的特徴を説明できる。 大腿部の軟部組織損傷の発生機序、症状・所見を説明できる。 大腿部の軟部組織損傷の施術法を理解し説明できる。 大腿部の軟部組織損傷の検査法の臨床的意義を理解し実施することができる。 	実技	
	7			実技	
	8			実技	
	9	前期中間試験（実技知識確認試験）			試験
	10	膝関節部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 膝関節部の解剖学的特徴を説明できる。 膝関節周囲の軟部組織の配置を説明できる。 主な膝関節の軟部組織損傷の症状・所見を説明できる。 主な膝関節の軟部組織損傷に対する施術法を理解し説明できる。 膝関節部の軟部組織損傷の検査法の臨床的意義を理解し実践することができる。 	実技	
	11			実技	
	12			実技	
	13			実技	
	14			実技	
	15			実技	
	16			実技	
	17	前期期末（実技技能試験）			試験
	18	前期期末試験（実技知識確認試験）			試験
後期	19	下腿部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 下腿部の解剖学的特徴を説明できる。 下腿部の軟部組織損傷の発生機序を説明できる。 下腿部の軟部組織損傷の症状・所見を説明できる。 下腿部の軟部組織損傷の施術法を理解し実施することができる。 下腿部の軟部組織損傷に対する検査法の臨床的意義を理解し実施することができる。 	実技	
	20			実技	
	21			実技	
	22			実技	
	23	足関節部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 足関節周囲の軟部組織の配置を説明できる。 足関節の軟部組織損傷の発生機序・症状・所見を説明できる。 足関節の軟部組織損傷の検査法の臨床的意義を理解し実施することができる。 足関節の軟部組織損傷の施術法を理解し説明することができる。 	実技	
	24			実技	
	25			実技	
	26	足・足趾部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 足、足趾部の軟部組織の配置を説明できる。 足、足趾部の軟部組織損傷の発生機序を説明できる 	実技	
	27	後期中間試験（実技知識確認試験）			試験
	28	足・足趾部の軟部組織損傷	<ul style="list-style-type: none"> 足、足趾部の軟部組織の症状・所見・施術法を説明できる。 足部に生じる骨端症の好発部位とその症状・所見・施術法を説明できる。 足関節の軟部組織損傷に対する検査法の臨床的意義を理解し実施することができる。 	実技	
	29			実技	
	30			実技	
	31			実技	
	32			実技	
33	実技				
34	実技				
35	後期期末（実技技能試験）			試験	
36	後期期末試験（実技知識確認試験）			試験	

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 外傷予防法

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	東 佑樹	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	1単位		あずま ゆうき	接骨院勤務(7年) 学校法人 呉竹学園附属施術所(7年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	実技	18回

【授業情報】

授業概要	外傷予防法は高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ、高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱで修得した知識を用いて、臨床現場及びスポーツ現場、機能訓練施設での外傷予防に有効な実技の手法を学ぶ。ここで修得した技術は3年次の臨床実習Ⅳでの患者への実践を行うために必要となる。それぞれの内容を詳細に学習するため2つのパート(外傷予防法①、②)に分けて授業を進行していく。 外傷予防法①ではストレッチングの理論と手法を学び、スポーツ現場や治療の場のどのような場面で使うことができるかを理解する。また関節可動域の測定方法を理解し、各関節のストレッチ前後の可動域の変化を確認する。
実務経験の反映	理論や基本的手法と合わせて、臨床経験で培ったストレッチを実践する際の微妙な力加減や人による力の使い分けのポイントを合わせて伝えていく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ」 2年次 : 「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ」 3年次 : 「臨床実習Ⅳ」 臨床実習 : 「臨床実習Ⅳ」の実習前評価(診察の補助・施術の補助)
授業の方法	実技実施の前に座学的知識を先行して講義し、解剖学的構造及び理論に基づいた実技が行えるように進行する。
授業の一般目標(GIO)	<ul style="list-style-type: none">・ストレッチの理論を生理学的に説明することができる。・ストレッチの種類を理解しそれぞれの違いが説明できる。・ストレッチを行う筋を触診することができる。・目的とする筋にストレッチが実践できる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識と技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：期末試験(100点満点)を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ※外傷予防法①(100点満点)と外傷予防法②(100点満点)の平均を外傷予防法の成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。
	【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験(100%)
担当教員から一言	ここまで勉強した多くの知識と技術を動員して行う授業です。ストレッチはスポーツ現場では広く普及し誰もが実践していますが、しっかりと理論を理解し個々の筋を把握し正確なストレッチを行うことができれば効果は倍増し、治療にも応用できます。臨床やスポーツ現場においてストレッチの技術はとても重要となるので、筋肉の付着部や作用を振り返りながら確実に身に付けましょう！
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	後期：火～土 9:00～17:45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
後期	1	ストレッチングの概論	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチングの種類と生理学的背景が説明できる。 ・ストレッチングの対象と効果が説明できる。 	講義
	2			講義
	3	関節可動域測定の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各関節の可動域を理解し説明できる。 ・ゴニオメーターの使用法を理解し、各関節の可動域が測定できる。 	実技
	4			実技
	5	上肢の筋のストレッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢の筋に対するパッシブストレッチの手法を理解し実施することができる。 ・上肢の各関節のROMのストレッチ実施前後の変化を測定することができる。 	実技
	6			実技
	7			実技
	8			実技
	9			実技
	10	下肢の筋のストレッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢の筋に対するパッシブストレッチの手法を理解し実施することができる。 ・下肢の各関節のROMのストレッチ実施前後の変化を測定することができる。 	実技
	11			実技
	12			実技
	13			実技
	14			実技
	15	体幹の筋のストレッチ	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹の筋に対するパッシブストレッチの手法を理解し実施することができる。 	実技
	16			実技
	17			実技
	18	後期期末試験		

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 柔道整復実技

【科目】 外傷予防法

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	本田 泰之	実務経験内容 (関連業務・所属・資格等)
単位数	1単位		ほんだ やすゆき	学校法人 呉竹学園附属施術所(4年) 接骨院勤務(9年)機能訓練施設勤務(5年)
必修・選択	必修	時間数	36	
開講学期	前期 後期	授業形態・回数	実技	18回

【授業情報】

授業概要	外傷予防法は高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ、高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱで修得した知識を用いて、臨床現場及びスポーツ現場、機能訓練施設での外傷予防に有効な実技の手法を学ぶ。ここで修得した技術は3年次の臨床実習Ⅳでの患者への実践を行うために必要となる。それぞれの内容を詳細に学習するため2つのパート(外傷予防法①、②)に分けて授業を進行していく。 外傷予防法②では高齢者、競技者に向けての外傷予防に有効な運動の手法を実際に体験しながら身につけていく。
実務経験の反映	接骨院と機能訓練施設での勤務経験と合わせ、並行して行っていた大学及び高校のラグビーチームのトレーナーとしての経験を活かし学生に伝えていく。機能訓練施設及びラグビーチームで利用者や選手に実際行っていた運動指導のポイントを指導していく。
関連科目	1年次 : 「運動器の機能構造Ⅰ」「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅰ」 2年次 : 「高齢者・競技者の生理学的特徴と変化Ⅱ」 3年次 : 「臨床実習Ⅳ」 臨床実習 : 「臨床実習Ⅳ」の実習前評価(診察の補助・施術の補助)
授業の方法	実技実施の前に座学的知識を先行して講義し、解剖学的構造及び理論に基づいた実技が行えるように進行する。
授業の一般目標(GIO)	・高齢者、競技者の各状況に応じた予防メニューやトレーニングメニューを提供するための知識、技術を修得し模範的にメニューを処方し指導を実践することができる。

【担当教員から】

教科書	「競技者の外傷予防」「柔道整復師と機能訓練」
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識、技能の修得 ・知識、技能の習熟度と応用能力の有無 →後期に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	【評価方法】 ○後期成績：期末試験(100点満点)を実施し、その成績を後期最終成績とする。 ※外傷予防法①(100点満点)と外傷予防法②(100点満点)の平均を外傷予防法の成績とする。 ○年間成績：後期最終成績を年間成績とする。 【評価詳細】 ○期末試験の評価割合：実技技能試験(100%)
担当教員から一言	東京オリンピックを機にスポーツ施設、スポーツ人口の増加が予測されます。それに伴いスポーツや運動に関連したケガも増えていくことが懸念され、障害が外傷を未然に防ぐことの重要性が高まっています。 コンディショニング(ファンクショナルトレーニング)という概念に基づき『ケガをしない体作り』の指導ができるように頑張っていきたいと思います。
自主学習	予習：必要なし 復習：必須
オフィスアワー	後期：火～土 9：00～17：45 2F 柔整科職員室 ※授業開講時間を除く

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
後期	1	運動のメリットとデメリット	・様々な負荷の運動を体感し、その結果起こる身体への影響を理解し、説明できる。	実技
	2	外傷予防概論	・外傷予防に有効な一般的な運動を理解し実践できる。	実技
	3			実技
	4	メディカルチェック評価と測定	・関節可動域の測定が実践できる。	実技
	5	コンディショニング	・外傷予防に有効なセルフケア、ストレッチ、予防マッサージ、テーピング、トレーニングの手法を理解し実践できる。	実技
	6			実技
	7			実技
	8			実技
	9			実技
	10	競技者に対する種目別の外傷予防	・各種競技における外傷予防に有効な手法を理解し、実践できる。	実技
	11			実技
	12			実技
	13			実技
	14	高齢者の外傷予防	・高齢者の外傷予防に有効な手法を理解し、実践できる。	実技
	15			実技
	16			実技
	17			実技
	18	後期期末試験		

【基本情報】

配当年次	2学年	指導担当者	外部臨床実習：臨床実習指導者	
単位数	1単位			
必修・選択	必修	時間数	48	
開講学期	夏期・後期	授業形態・回数	実習	24回

【授業情報】

実習概要	<p>臨床実習Ⅰでの経験、基本診察法Ⅰ、固定法Ⅰ、固定法Ⅱで修得した技術、柔整後療治療論、柔道整復師の業務と職業倫理で修得した知識をもとに、学外の接骨院、機能訓練施設、整形外科に赴き業務の一端を担う。 接骨院に赴き、その業務を理解し柔道整復師としての基本業務及び診察及び施術の一部を実習先指導者の指導のもと実施する。 機能訓練施設に赴き、その業務を確認し柔道整復師としての携わることのできる業務を実習先指導者の指導のもと実施する。 整形外科に赴き、その業務を確認し患者対応の補助を行う。</p>
関連科目	1年次：「臨床実習Ⅰ」 2年次：「臨床実習Ⅲ」 「応用診察治療法」「外傷予防法」→臨床実習前施術評価試験
実習の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none">・柔道整復師として患者の前に出るに相応しい立ち居振る舞いをすることができる。・付属施設にて基本業務及び診察の補助を実習指導者ものとし実施することができる。・機能訓練施設にて業務の一部を実習先指導者の指導のもと実施することができる。・整形外科にて業務を確認し患者対応の補助を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○実習に対する意欲と積極的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・臨床実習の意義の理解と積極的な実習への取り組み <p>○実習を通じて養われる柔道整復師としてのプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none">・患者に対する態度、立ち居振る舞い、相手の気持ちに立ち考えることができる心
成績評価方法	<p>【年間成績】：①評価項目に則る各実習毎の指導者からの評価 ②各実習毎のレポート提出 ③最終実習終了後のレポート提出 ①～③の内容を総合的に評価し年間成績とする。</p>
	【その他】

【実習計画】

学期	回数	実習内容	到達目標 (SB0s)	実習形態
夏季・後期	1	外部臨床実習① (接骨院)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間を厳守し実習に臨むことができる。 ・適切な身なり、態度で実習に臨むことができる。 ・積極性をもって実習に臨むことができる。 ・実習指導者の指示に従い、適切に業務を實踐できる。 ・事業所内でスタッフとコミュニケーションがとれる。 ・事業所の環境整備に常に留意できる。 (清掃、清潔保持、ベッドメイキング等) ・適切な態度で患者対応ができる。 (挨拶、言葉遣い、コミュニケーション等) ・適切に患者の誘導ができる。 (受付への誘導、ベッドへの誘導等) ・ベッドサイドで患者の補助ができる。 (患者への気遣い、気配り、介助等) ・実習指導者の指示に従い診察及び施術の一部の補助ができる。 	実習
	2			実習
	3			実習
	4			実習
	5			実習
	6			実習
	7			実習
	8			実習
	9			実習
	10			実習
	11			実習
	12			実習
	13			実習
	14			実習
	15			実習
	16			実習
	17			実習
	18			実習
	19			実習
	20			実習
	21	外部臨床実習② (整形外科)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間を厳守し実習に臨むことができる。 ・適切な身なり、態度で実習に臨むことができる。 ・積極性をもって実習に臨むことができる。 ・実習指導者の指示に従い、適切に業務を實踐できる。 ・事業所内でスタッフとコミュニケーションがとれる。 ・業務内容を把握し整形外科での柔道整復師の役割を理解することができる。 	実習
	22			実習
	23	外部臨床実習③ (機能訓練施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時間を厳守し実習に臨むことができる。 ・適切な身なり、態度で実習に臨むことができる。 ・積極性をもって実習に臨むことができる。 ・実習指導者の指示に従い、適切に業務を實踐できる。 ・事業所内でスタッフとコミュニケーションがとれる。 ・実習指導者のもとその業務の一部の補助ができる。 ・業務内容を把握し機能訓練施設での柔道整復師の役割を理解することができる。 	実習
	24			実習

2024年度 柔道整復科

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅲ

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	火曜日：林 雄祐 (はやし ゆうすけ) 水曜日：東 佑樹 (あずま ゆうき) 木曜日：本田 泰之 (ほんだ やすゆき)		
単位数	1単位				
必修・選択	必修	時間数	48		
開講学期	前期	後期	授業形態・回数	実習	24回

【授業情報】

授業概要	臨床実習Ⅰでの経験、基本診察法Ⅰ、固定法Ⅰ、固定法Ⅱで修得した技術、柔整後療治療論、柔道整復師の業務と職業倫理で修得した知識をもとに、付属施術所にて患者の診察の補助及び施術の補助を指導者の指導のもと実施する。また療養費の支給申請をするにあたり必要となる知識を学ぶ。				
関連科目	1年次：「臨床実習Ⅰ」 2年次：「臨床実習Ⅱ」 「応用診察治療法」「外傷予防法」→臨床実習前施術評価試験				
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none">・柔道整復師として患者の前に出るに相応しい立ち居振る舞いを身に付ける。・付属施術所指導者の指導のもと付属施術所での基本業務を理解し実施することができる。・付属施術所指導者の指導のもと患者に対しての診察及び施術の一部を補助することができる。				

【担当教員から】

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none">○実習に対する意欲と積極的な取り組み<ul style="list-style-type: none">・臨床実習の意義の理解と積極的な実習への取り組み○実習を通じて養われる柔道整復師としてのプロフェッショナリズム<ul style="list-style-type: none">・患者に対する態度、立ち居振る舞い、相手の気持ちに立ち考えることができる心
成績評価方法	【年間成績】：①評価項目に則る各実習毎の指導者からの評価 ②各実習毎のレポート提出 ③最終実習終了後のレポート提出 ①～③の内容を総合的に評価し年間成績とする。
	【その他】

【授業計画】

学期	回数	授業内容	到達目標 (SB0s)	授業形態
後期	1	附属施術所実習①	<ul style="list-style-type: none"> 骨の触診ができる 筋の触診ができる 超音波画像観察装置を使って運動器の描出ができる 	実習
	2			実習
	3			実習
	4			実習
	5			実習
	6			実習
	7			実習
	8			実習
	9	附属施術所実習②	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトテーピング固定ができる。 キネシオテープの走行を理解できる。 スポーツマッサージの理解を深め実施できる。 スポーツトレーナーの仕事を理解できる。 外傷の対処法の理解できる。 機能回復訓練師の仕事を理解できる。 	実習
	10			実習
	11			実習
	12			実習
	13			実習
	14			実習
	15			実習
	16			実習
	17	コンディショニング概論 コンディショニング体験	<ul style="list-style-type: none"> 医療分野と運動分野の連携の必要性を理解できる。 フィジカルコンディショニングを体験し、理解できる。 	実習
	18			実習
	19	ファンクショナルトレーニング理論①	<ul style="list-style-type: none"> ファンクショナルトレーニングの概要を理解できる。 ファンクショナルトレーニングの理論を理解できる。 	実習
	20			実習
	21	ファンクショナルトレーニング理論②	<ul style="list-style-type: none"> ファンクショナルトレーニングの理論を理解できる。 	実習
	22			実習
	23	コンディショニング実践	<ul style="list-style-type: none"> ファンクショナルトレーニングの考え方にに基づき不良動作を見つけることができる。 動作を評価し、適切な運動を処方することができる。 	実習
	24			実習